

料金別納郵便



辻清明のガラス・ 協の陶器 二人展「今」

令和7年7月18日(金)~23日(水) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時（最終日23日は午後5時まで）

辻 清明

つじ せいのめい

昭和2年 東京都生まれ
昭和30年 多摩市連光寺の高台に辻陶器工房と登窯を築窯
昭和39年 「日本陶磁協会賞」受賞
昭和58年 「日本陶磁協会賞 金賞」受賞
平成17年 名誉都民賞 受賞
平成20年 死去（享年81）
令和7年 辻陶房が国の登録有形文化財に登録

辻 協

つじ ぎょう

昭和5年 東京都生まれ
昭和27年 東京女子美術専門学校（現女子美術大学）洋画科卒業、「新工人」会員
ガラス板に漆を塗って彫刻する独創的な作品を制作
昭和28年 辻 清明氏と結婚。結婚をきっかけに作陶を始め、多摩に陶房を築く
昭和45年 女性初の「日本陶磁協会賞」受賞
平成20年 死去（享年77）

平成20年4月15日、辻清明が亡くなり、その後を追うように妻の協が亡くなった。この二人は切磋琢磨しながら、お互い独自の道を歩んだ。清明は権威に媚びることなく堂々と自らの生き方を貫き、協は女流陶芸家の草分けとして暮らしに役立つ器を制作した。恐らく、スケールの大きさでは今世紀最後の大家陶芸家と言ってもいいだろう。清明は十一歳で陶芸を始め、十六歳で姉 輝子と共に辻陶器研究所を開いた。その早熟上か、彼の造る信楽作品は本歌を越えて、清明独自の「明る寂」が感じられる。ガラスに挑戦するのは六十三歳から。そのガラスについては「ガラスから形を借り、他方で、焼きものの形をガラスに返しているというのが今の私の役目でもある」と語っている。その天才ぶりは陶芸同様、ガラス作品にも見ることが出来る。一方、協は料理を得意とし、食卓に並ぶ器を沢山制作した。晩年は奈良の三輪山を御神体とする大神神社を信仰し、祈りの世界を表現した小宇宙作品を制作する。今展の作品には、常に瞬間、瞬間を生きた二人の「今」が籠められている。

森 孝一（美術評論家・日本陶磁協会 常任理事）

柿ヶ谷ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

公式Instagram



